

令和元(2019)年度 第1回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和元(2019)年5月20日(月) 14:30～16:30
- 2 場 所 日光明峰高等学校 メディアⅠ教室
- 3 出席者 委員12名(1名欠席)
その他栃木県教育委員会事務局から5名、本校事務局職員7名、他校教員1名
- 4 司 会 本校教頭
- 5 次 第
(1)開会
(2)会長あいさつ
(3)校長あいさつ
(4)新委員紹介
(5)会長選出
事務局から、昨年度に引き続き石井委員に会長を務めていただくことを提案し、全員の承認を得る。
(6)協議 (下記6の通り)
(7)その他 (下記7の通り)
(8)閉会

6 協 議

○令和元年度学校経営方針について

〔校長〕

昨年の学校運営協議会の最終回で示し、ご了解を得た今年度の学校経営方針をもとに、新たに着任した新校長の立場で付け足した部分があるので、その点を説明する。

- ①来年度入試以降、本校の存続条件を超える入学者数を確保するために、「生徒の獲得」という具体的な目標を打ち出した。
- ②安全・安心な学校であるために、日常の生活や学校行事に潜む危険因子をもう一度徹底的に洗い出し見直すことが重要であるため、「学校安全」の項目を付け足した。
- ③これまでも本校教員は、惜しみなく時間をかけて生徒と向き合ってきたが、時間に限りがあり、また教員自身の健康が重要であることから、「働き方改革」の観点を加えた。

〔委員〕

アイスホッケー、スピードスケートのウィンタースポーツを特色として打ち出しているが、それに限定していると受け入れる生徒の裾野が狭くなってしまう。バドミントンや卓球など、人気のある競技の部活動で生徒が取り込めるとよいが、短期間でコースの内容を変えることは難しいか。また、指導者の確保や教員の働き方改革の観点からも限界があるか。

〔校長〕

バドミントン部などの活躍は積極的にPRしていきたいが、今の段階ではスポーツの生徒募集はウィンタースポーツに限定したい。

〔委員〕

2022年に冬季国体がある。本校が「少年」の中心となるが、日光明峰高校に入学すると国体に出られる、というようなPRができないか。

〔委員〕

学校経営方針は文字数が多く文字も細かいため、このままでは誰も見ないのではないかと。大項目だけを載せてもっとシンプルにすべきではないかと。

〔会長〕

「学び直し」も本校の特色なので、HP用にアレンジしたものには、しっかり入れてほしい。

〔委員〕

昨年度から、「観光科」を作ってもらいたいと考えてきた。日光のホテルや旅館ではなり手がなくて困っている。

〔会長〕

学科の設置には大きな壁がある。しかし、教育プログラムに「観光」を盛り込むことは検討の余地がある。昨年度はイメージ戦略ということで、これまでの本校のマイナスのイメージをようやくゼロに引き上げることができた。今、教育プログラムの内容について話し合うことができる段階となった。中期的・長期的視点で生徒を募集していくためには、教育プログラムやカリキュラムについて話し合っていく必要があるだろう。

〔委員〕

すでに「日光学」や「郷土芸術」があったり、地元で活躍できる人材育成に特化したプログラムも多くある。

〔会長〕

「ウインタースポーツコース」としては今のままのアイスホッケーとスピードスケートのみでよいが、その他のスポーツにも柔軟に対応していくという姿勢を見せるようにしてもらいたい。アイスホッケーやスピードスケートに絞りすぎた広報をしないということによりかし。 → 了承

7 その他

(1) 部活動に関する活動方針について

〔校長〕

スポーツ庁からのガイドラインを踏まえ県が作成したひな形をもとに、本校としての部活動指導における休養・練習時間等をまとめた活動方針を作成した。これに基づき、今後短時間で効率的な部活動指導を行っていききたい。委員からの意見を伺いたい。

→ 了承

(2) 平成31年度入試の報告について

〔校長〕

今年度の入試は、旧今市市からの入学者数が半数以上となり、旧日光市からの入学者数が減った。確かな原因はつかみ切れていない。

〔事務局・教頭〕

今後、県外からの生徒に対しては、下宿所に入所することが可能である旨を、パンフレットを使ってPRしていく。

〔会長〕

県が所有している寮と勘違いされないよう、民間が提供している下宿所であることを説明してもらいたい。いずれにしてもPRを積極的に行ってほしい。

(3) 第1回生徒募集戦略専門部会からの報告

開催日時	令和元年5月14日(火)	16:00～
場所	本校応接室	

〔部会委員からの説明〕

日光地区の中学生でアイスホッケーをしていながら、日光明峰高校に入学する生徒が少ないということを受け、その対策としてこの部会を設置した。

高校進学の際に北海道や関東の他県に出てしまう現状にある。なんとか地元の本校に入学させたい。本校の良さをアピールするためにはどうすればよいか。

〔委員〕

下宿所ができたのは大きなポイントである。また、部費や合宿代も、他校よりも安い。経済的負担が少なく、かつ質の高い指導をしている。

〔委員〕

北海道は周囲に強豪校が多く、切磋琢磨できる環境にある。練習環境を高めるためにはどうすればよいか

〔委員〕

地元の中学校との合同練習を行っている。本校のカラーも自然に伝えられるのではないかな。今後も連携を深められるとよい。

〔委員〕

OB会からの支援をさらにもらえるとありがたい。

(4) 今後に向けて

〔校長〕

今年の入学生にアンケートをとったところ、本校を選んだ理由の割合が最も高かったのが、「基礎からもう一度学習ができる」であった。次いで「アイスホッケーやバドミントンがやりたい」、「ボランティア活動や学校行事に積極的に参加したい」であった。これらを踏まえた今度の在り方を考えたい。

〔委員〕

卒業生や入学者の生の声を、小・中学生に届けてほしい。高校生を各中学校に派遣して、学校説明を行ってはどうか。一日体験学習の締切が6月なので、その前にできるとよい。今年入学した生徒が出身校の後輩に出向くとともに、さらに手紙を書いてアピールしてはどうか。上都賀地区の中学校長会があるので、その時にパンフレットを配ることもできる。

〔委員〕

同窓会として、Facebookのアカウントを作成した。発信したいものがあればどんどん活用してほしい。

〔委員〕

HPの更新をもっとスピード感をもって行わないとだめ。対応するための校内システムを作成すべき。

〔会長〕

委員は、本校の教育プログラムがよく分かっていない。それを理解して今後について話したい。

(5) 県の高校魅力化フォーラムについて

〔県教委担当者〕

6月29日に実施予定の本会に、是非出席願いたい。

(6) 次回の日時の確認

〔教頭〕

7月25日（木）の14：30からを予定したい。 →了承